

令和3年度2学期始業式 訓話

校長 江川 数司

本日より令和3年度2学期が始まります。

1学期の終業式では「どん底」ということについてお話ししましたが、みなさん、覚えているでしょうか。

「どん底」の経験こそが、その世界の本質を明確に示すもの。「どん底」だからこそ「本気」を、また、「どん底」だからこそ大切なものに気づくことがあるというお話しをしました。そして、このことは学問や勉強についても同じであること、夏休み中の勉強でも、みなさんがこの小さな「どん底」をいくつも経験することを願っているとお伝えしました。みなさん、どうですか？「どん底」に出会えたでしょうか。

今日はその話しの続きとして、ある他県の高校生の保護者から、本校水球部にいただいたお手紙を紹介させていただきたいと思います。

突然のお手紙失礼いたします。…（お手紙の送り主の紹介 略）…。

先日、国体予選で江津高校の試合を競技役員として観させていただきました。選手たちの一生懸命に泳ぐ姿、最後までボールを追う姿、その全カプレーに大変心を打たれました。また、試合の合間に生徒だけでミーティングをしている姿やそれを遠くから見守っている先生の姿もとても素敵でした。すっかりファンになってしまいましたが、コロナ禍であり、息子も引退したため、もしかするともう江津高校の生徒たちの試合を見ることはできないかも知れません。そこで勝手ではありますが、ささやかながら激励の気持ちを送らせていただきたいと思います。今後のご活動のお役に立てていただけたら幸いです。

生徒、保護者の皆様にもよろしくお伝えください。

豪雨、猛暑、コロナと大変な毎日が続きますが、どうぞご自愛ください。

乱筆乱文お許しください。

このように他県の高校部活動の保護者からお手紙や激励の品が届けられるという経験は私の教員人生において果たしてあったらだろうか。たぶん、初めてのことであると思います。嬉しいかぎりです。

みなさんも、もうおわかりのとおり、いくら「どん底」であっても、逃げ出さず、真摯に困難と向き合い、全力で闘い続けるかぎり、観ている人は観ており、応援してくれる人がいるということです。それは、人間の心が動かされるのは、勝負の結果や成績だけでなく、むしろ、今は結果や成績に結びついていなくとも、真剣に自分や自分たちの夢と向き合い、困難にもめげず、そのための努力を継続していく姿勢そのものの美しさにあるということでしょう。

また、その美しさに感動するのは、人が人間の可能性を信じ、変わる、成長するということを理解しているからとも言えます。あるいは、人間の多様さには多くの可能性が潜んでいるということを知っているからだとも言えます。私はみなさん自身が、変わる、成長する挑戦を続けて行くことを期待するとともに、周囲の仲間の変わろうとする姿、成長しようとする挑戦にも関心を持ち、応援できるクラス、部活、学校になってほしいと願っています。3年生の学年通信で何度も言及されている「応援される人」になるためには、「応援できる人」になることが大切であると思っています。

今日からはじまる2学期もまた、みなさんの成長への挑戦が、お互いにリスペクトされ、追求され続けていくことを願っています。健闘を祈ります。

最後に、みなさんに具体的なお願いをして、私の講話を終わりたいと思います。それは感染症への対応です。ご承知のとおり、感染拡大第5派の医療への圧迫が「災害レベル」と言われる状況となってきました。全国知事会で緊急事態宣言は全国に拡大すべきであるとの意見が出され、島根県においても感染状況はステージ3に上がり、これまでの感染者の全員入院方針も見直さざるを得ない状況となりました。今、3年生は就職・公務員試験や進学における総合選抜など本番を迎える時期となり、みなさんの学園祭も目前です。学校での感染拡大はなんとしても防ぎたいと思っています。

そこで、みなさんには、先生方からの指示には極力、協力いただきたい。毎日の検温、マスクの着用、手洗い・消毒、換気の徹底に加えて、今日からは大声を出さないこと、そして、昼食を教室の各自の席で黙って食べることをお願いします。これは厳守です。守られているかどうか教職員もチェックします。本日の始業式がこのようなりモードになったのも、こうした理由からです。どうかよろしくお願いします。